

【草花の部屋】

アオイケシ (ケシ科メコノプシス属) Meconopsis simplicifolia (D. Don) Walp.)

和名：アオイケシ(メコノプシス・シンプリシフォリア)

別名：ブルーポピー **英名**：blue poppy

ケシ目 多年草 **原産地**：ヒマラヤ

花言葉：神秘的、果てない魅力をたたえる、深い魅力 **花の色**：青



← **写真-1** アオイケシの花

撮影日：2013年7月10日

撮影場所：ポントレジーナ(スイス)にて

撮影者：M さん

宿泊ホテルの前庭に咲いていました。青い色「ひょっとしたら、あの青いケシ?」と思い、近寄ってみるとやはりケシ。ラーキーと思いました。が、後で調べてみる、どうも、「ヒマラヤの青いケシ」ではないようでした。ヨーロッパ産の種でもなく・・・。どうやら園芸種のようなのです。

「青いケシ」、そもそも標高 3000~5000 メートルの高地に自生する花で、耐暑性が非常に弱いので栽培は簡単ではないそうで、しかも低地では、咲いても色があまり青くならないようです。一言に青いケシと言っても、園芸種もあり、仲間は、多いようです。

青いケシと一般のケシとの見分け方法の一つに、葉の形状にあると思われます。青いケシは、長楕円形で周囲に小さい鋸歯。ヒナゲシの葉には、大きな切れ込みがあるようです。



← **写真-2** アオイケシの葉

撮影日：2013年7月10日

撮影場所：ポントレジーナ(スイス)にて

撮影者：M さん

高地で短期間しか咲かないために「幻の花」とも呼ばれているそうです。が、苗も売られているそうです。

植物体に毛が生え、丈に比較して大きな花を咲かせる。基本的に四弁花。稀に五弁、六弁の種がある。低温性で寒さには強い。といったケシ属とは多くの共通する特徴を持ちますが、花柱が明瞭に認められることで区別されるそうです。種の多くが開花後枯死する一年生植物。生育環境にうるさく、種子の発芽率が良くないので、継続して栽培するのが非常に難しいことで有名だそうです。しかし日本でも北海道、東北地方、中部地方などの山岳地帯や、日本に較べて寒冷的な気候のヨーロッパでは比較的栽培し易いようです。

属名のメコノプシス (Meconopsis) は「ケシに似た」という意味のギリシャ語で、直訳すれば「ケシモドキ」。この属名がそのまま園芸名としても通用するので、特に和名は定められていないが、アオイケシというカナ表記がされることがあるそうです。

<ちょっと一言>

*ヒマラヤの青いケシ

メコノプシス・ベトニキフォリア

学名 : Meconopsis betonicifolia Franch

英名 : Himalayan blue poppy

主産地は中国雲南省北西部の高山地帯。多年生のため、一度根付けば種から育てる必要は無く、その点栽培の難しい本属の中では栽培しやすいといえる。ただし低地で栽培した場合は紫外線の影響もあり、花色の青は薄らぐ傾向にあるそうです。